

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	教授	氏名	山下 明美
調査研究課題	ホスピタルデザイン・アートにおけるビジュアルデザインの可能性					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	山下明美	岡山県立大学・教授	色彩学、視覚デザイン		
	分担者	高杉尚志	高杉こどもクリニック・院長	小児医療	医療監修、医事指導	
調査研究実績の概要	<p>申請時の活動計画に沿って以下のとおり研究報告とする。</p> <p>事例調査</p> <p>◎ホスピタルデザイン・アート活動に関する書籍や文献による調査を実施した。また川福のメディカルデザイン研究会や、アートミーツケア学会への参加、関連する美術館や施設などを視察し、情報収集に務めた。</p> <p>ホスピタルデザイン・アートは大きく分けると、主に医療に関連するコミュニケーションや情報デザインに重きを置いた領域とデザインやアートによる精神的なケアに重きを置いたものに分けられるが、いずれも医療施設のみならず、公共空間においても重要な視点となっていることが近年の事例からも確認することができた。</p> <p>調査を実施した主な施設：耳原総合病院、大分県立美術館、金沢21世紀美術館、金沢美術工芸大学、川崎医療福祉大学、直島ベネッセアートサイト、倉敷中央病院、松田病院、国立科学博物館、国立新美術館など</p> <p>研究課題の絞り込み</p> <p>◎今年度はこれまで実践してきた活動を振り返り、新たな課題の設定を行い、ビジュアルデザインの視点から検証と実践を行った。</p> <p>①地域貢献として：こども救急医療に関するコミュニケーションツールの開発</p> <p>②他事業（教育力向上）との関連で実施事例の検証と分析を行う。</p> <p>研究課題の実践</p> <p>① 関連：こども医療に関するCUD（カラーユニバーサルデザイン）に配慮したコミュニケーションツールの開発では、こども救急医療に関する紙芝居の第2弾で高杉こどもクリニック高杉氏の監修のもと、ゼミ学生3名と「感染性胃腸炎ってなあに」に取り組んだ。また、県内の医療機関（倉敷中央病院広報室）からの依頼で、色彩計画演習の中で、学生たちが地域医療に関する活動を周知するための広報ポスターに取り組んだ。県内のデザイン系大学のうち、本学、川崎医療福祉短期大学、倉敷芸術科学大学の3校への指名コンペで本学からは28点の作品を提出した。うち2名が優秀賞、1名がサポーター賞を受賞した。2年生が中心の取り組みであったが、主催者からも高い評価を得た。</p> <p>② 関連：公共空間におけるビジュアルデザインによるケア効果の検証については、事例研究と今年度教育力向上支援事業で学生相談室周辺環境改善に関連して実施したSD印象評価（分析協力：代表 迫教授）等を参考に次年度アートミーツケア学会での研究発表を目指す。</p> <p>考察と検証</p> <p>① 関連：ビジュアルデザインの視点での課題の検証：コミュニケーションの手法も多様化しており、昔ながらの描画イラストとオーラル・コミュニケーションによる紙芝居の良さを活かしながらYoutubeなどで自宅でも聴講できる動画タイプ、待合などで手軽に読むことができる絵本タイプなど、同内容で複数のコミュニケーションツールが必要であることが確認された。今年度は、紙メディアによる紙芝居のみの制作となったが、今後はこれらをもとに動画、絵本、絵本の多言語化などに取り組んでいく。次年度の他分野との関係ではデザイン学部学生と子ども学専攻の学生との交流による教育効果も期待される。</p> <p>② 関連：今年度は他事業の進展と合わせて研究発表の準備のための調査と実験となったが、事例調査や視察でみえてきた課題もあり、今後の研究発表に活かしていきたい。</p>					

まとめ

◎ 本報告書の作成など。今年度の成果については、OPUフォーラムにて発表予定。

今後の展開

① 関連：他分野との関係や協働の可能性：次年度は保健福祉推進センターの新規重点枠「本学の特色を発揮できるテーマでの行政との連携活動等」の活動の一部として研究を継続することになった。専門分野との協働でより研究内容を深めることができることが予想される。

② 関連：ホスピタルアート・デザインにおけるビジュアルデザインの可能性として視察、調査を通して新たな課題も見えてきた。今後は医療機関のみならず、図書館、博物館など公共施設におけるユニバーサルデザインや教育コミュニケーションツールの開発などの新しい課題にもこれらの視点が重要となることから今後の新たな課題として取り組んでいきたい。

教育プログラムへの応用展開など

これまでもゼミ、演習、卒業研究などで関連したテーマに学生と共に関わってきて学習意欲や実践的なプログラムに関わることによる達成感、協働することで生まれるチームワークなどの手応えが得られた。反面、時間の問題や予算の制約から積極的に取り込むことができない場合もあり、今後は可能な限り、これらの課題も改善していきたい。

① 関連 - 1 こども救急医療のためのコミュニケーションツール打ち合わせ風景



① 関連 - 2 わが街健康プロジェクト広報ポスター



② 関連 - 1 事例調査の一部（耳原総合病院：堺市）



成果資料目録

- ◎ こども救急医療に関する紙芝居Ver,2 「感染性胃腸炎ってなあに」
- ◎ わが街健康プロジェクト 広報ポスターコンペ出品(28点)
- ◎ 学生相談室周辺環境整備と印象評価調査